

# 第168回「防災まちづくり談義の会」レポート

(防災塾・だるま・ホームページ: <http://darumajin.sakura.ne.jp/>)

平成31年6月

日時: 2019年6月28日(金) 16:00-17:30 場所: 神奈川大学 24号館 310号室

◆主催: 防災塾・だるま 司会: 山田美智子 記録: 紅林敏行

◆談義の会参加者: 会員15名 一般14名(含む講師、学生5名) 計29名 (敬称略)



山田さん(司会)



荻原さん(講師)



講演の風景



荻本塾長(挨拶)

話題: 『災害時に命を守る「応災力」』 ～海上自衛隊八戸航空基地での東日本大震災支援活動～

講師: 荻原 洋聡氏 元 海上自衛隊一等海佐、現 ㈱エヌ・ワイ・ケイ 参事、日本地震予知学会会員

2009年12月からジブチ共和国に滞在、2013年3月八戸海上自衛隊航空基地にて東日本大震災に遭遇し、ガレキ撤去等の震災対処・災害派遣業務に従事。『応災』という概念を考案し、防災教育に取り組む。また大地震の予兆を得るべく日々の地震の観測データを集計、傾向分析に取り組む。ジブチ共和国、東日本大震災、八戸越冬実験等の貴重な写真、防災バックとキャップ用品、『日本全国震源地域別・日々・地震発生回数履歴』を紹介しつつ『応災力』について解り易く講演。解り易い『液状化実験』も実施。

### ◆毎日がガレキの状況 ジブチ共和国での体験

- 2009年12月からジブチ共和国派遣事前調整チーム参画
- 『117・荻原大佐』・『77』語  
CAPT. Youssouf OGIHARA⇒CAPT. Youssouf OGIHARA
- 砂漠の世界、北緯11度、気温は「暑い」か「とっても暑い」のどちらか。日本の恵まれすぎていることを痛感!  
今ある当たり前のもの、ことが無くなる時があると想い、その準備をしていないと大変な状況に遭遇すると困る。

### ◆東日本大震災支援活動での体験

- 海上自衛隊八戸航空基地・機動施設隊司令時に被災。  
ただならぬ揺れと長い揺れ。八戸沿岸は津波による甚大な被害。近隣の自治会等の方々に避難場所を提供。ガレキ撤去等の震災対処・災害派遣業務に従事。
- 「災害は忘れた頃にやってくるのではない! 忘れたくてもやってくる!」

### ◆『防災』『減災』そして『応災』

- 『応災力』被災した時に速やかに適切に対応する力。  
心の準備、物の準備を日頃から準備し、被害の連鎖を防ぐ。
- 防災バック(キャップ用品等)を常時持参し、飲食時に使用。キャップ用品、日々使い慣れることでいざという時に役立つ。  
⇒火打石、水の濾過用品も常備 (参照左下①の写真)

### ◆「まずはやってみなされ!」

- 冬期避難所の課題を解決すべく、八戸海上自衛隊の官舎の1室内にテントを張って越冬生活を自ら実験。入浴は水道水のシャワーと週末地元温泉のみ。
- 冬期被災時のガレキは雪山での1週間キャップに耐えうる装備と食糧備蓄しておけば必要十分との感触・体感を得た。  
《右枠上に続く》

### ◆敵を知る地震予知

- 震災1ヶ月前から『ゆっくり滑り』東日本大震災につながった。  
2011/2/26 三陸沖地震から地震を起こしながら大地震に。  
(東大地震研)
- 2011/3/9以降の群発地震時に、材材少年の様に騒いでいればと・後悔した。
- 『日本全国震源地域別・年間/日々・地震発生回数履歴』  
(参照左下②の写真)
- 「大地震の前には予兆があるのではないか?」と信じて阪神淡路大震災の前年の1994年から地震データを全て集めている。  
1年分を印刷すると約8メートルになる。  
過去を調べることによって震源地の様子をみると毎年地震が多いところとそうで無いところがある。特徴を掘めれば大地震の予見につながるのでは・・・(参照右下③の写真)
- 熊本地震は南海トラフ3連動の予兆ではと危惧している。

### ◆防災教育

- 「わが事」のようにと想う気持ちを「心の芯に抱く」ように気づかせるよう導くこと。
- 子ども達に『液状化実験』等で地下構造の中で何が起きて被害が起きるのかを伝える。  
(参照右下④の写真)

### ◆津波対策

- まずは海岸からより遠くに、地面からより高い所へ逃げる。  
加えて浮くことが出来る。

〈参考〉『津波救命艇』の紹介 国土交通省関東運輸局 小林久幸氏  
○いざという時に逃げられる津波用ヘルメット、高い耐衝撃性。  
25人乗り7日間生きるスペース。水、飲料水、食料などを常備。  
○7/16(金)横浜第二合同庁舎にて見学会開催。



### ●次回(第169回)案内

- ・日時: 2019年7月26日(金) 16時~18時00分
- ・会場: 横浜市青少年育成センター 第1研修室(関内ホール地下2階)
- ・話題: 『意見交換会「私たちの命は、生活は守れるのか」』~必ず発生するとされている東海・東南海地震~
- ・総司会: 松山順三氏(災害のパートナー(元神戸市役所職員:阪神淡路大震災時須磨区対策本部で活動))